

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol. 8 2013 秋号



発行：猛禽類保護センター（愛称：鳥海イヌワシみらい館）

〒999-8207 山形県酒田市草津字湯ノ台 7-1-1 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
http://www.raptor-c.com E-Mail:moukin@raptor-c.com



「ハチクマ」撮影：アクティングレンジャー 長船裕紀

ハチクマは夏鳥として日本にやってきて繁殖をする猛禽類の仲間です。バードウォッチャーにはおなじみのこのタカも、まだまだ一般的に名前を知っている人はそんなに多くはありません。大きさがトビほどもある中型のタカなのですが、ふつうこのくらいの大きさの猛禽類はノウサギやネズミなどの哺乳類や、爬虫類などを主食としているのに対して、ハチクマは名前にもなっている通りハチの幼虫が大好物です。森の中で地蜂の巣を掘り当てては、幼虫をつまんで食べている変わった習性を持つタカです。

最近では衛星を使った調査がすすめられ、移動経路などこれまではっきりしていなかった渡りの行動もわかるようになってきました。秋の渡りでは、その年に生まれたばかりの幼鳥も五島列島から東シナ海を一気に渡っていくようです。

また春に日本にやってくるハチクマたちが、子育てできるように餌となるハチや様々な生き物が生息できる豊かな環境をこれからもずっと残していきたいものですね。

（文：本間憲一）



～バードウォッチングへの誘い～ 第8回 庄内で会いたい・・・珍鷹たち



珍鷹（ちんよう）。なんとも間抜けな響き。ワシタカではありませんが庄内では今年、タンチョウ（5月）やコウノトリ（8月）も飛来して話題になりました。ワシタカ達でも普段は会えない個体がこれまでに確認されています。珍鷹たちとの出会いもワシタカウォッチングの醍醐味。えっ？それメインで見る？（絵：普及啓発担当 本間）



↑「クロハゲワシ」

翼を広げた大きさ：250～290cm

大魔王が空を飛んでいる姿はこんな感じでしょうかね。国内で観察されたワシタカの仲間では最大です。普段は中近東あたりに生息していますが、1990年に庄内町で保護されたほか、1998年にも酒田市に飛来したのが確認されています。90年の個体は剥製となって山形県立博物館に収蔵されています。

↓「アカハラダカ」

大きさ：ヒヨドリくらい
西日本から南にお住まいの方々にとっては時期が来れば見ることができる旅鳥ですが、ここ山形県ではまれです。鳥海山の他、飛島でも記録があります。

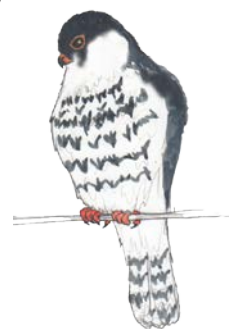


「アカアシ チョウゲンボウ」↓

大きさ：ハトくらい
ハヤブサの仲間にも色々います。足が赤いということですよ。酒田市では飛島や秋の鳥海山で観察されています。絵は若鳥（♀）

「マダラチュウヒ」↑

大きさ：カラスくらい
オスの体は白、黒はっきりして見てる方も清々しい気持ちになれますね。最上川の河口で一度、飛島でも観察記録があります。



イヌワシってどんなワシ？⑦「イヌワシの一年」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシってなに？と思う人や図鑑でしかイヌワシを見たことがない人もいられるかもしれません。そこでシリーズ7回目は「イヌワシの一年」について紹介します。

食欲の秋、収穫の秋、読書の秋、芸術の秋、ダイエットの秋。秋の行事はたくさんありますね。イヌワシはといいますと子育ても終盤、幼鳥はもう親離れのシーズンです。性成熟したイヌワシは年に一度、冬に繁殖期を迎えます。初冬にオスとメスはディスプレイフライトを繰り返し、お互いペアであることを確かめます。また繁殖のために使う巣に巣材を足して繁殖用に改築していきます。雪の降りしきる真冬に卵を産んで温めます。春に近づき卵がかえって真っ白なヒナが誕生します。ヒナは生後2ヶ月ほどで親とほぼ同じ大きさにまで成長します。自力で飛んでエサが採れるようになって親を安心させないといけません。夏、親鳥は飛び始めた幼鳥を見守りながら飛び方や狩りを教えて一人前のイヌワシに成長させるのです。う～ん・・・こうしてみると一年の大半が子育てですね。よく当館に来場される方からの質問で、「繁殖に成功すれば、鳥海山に生息するイヌワシの数も増えていくんでしょ？」といったことを言われますが、ここ鳥海山は親のなわばり。若鳥は住むことはできないので、これからの季節、住処をさがして放浪の旅が始まるのです。

イヌワシ繁殖率低下の問題は、繁殖期に人間が巣に近づくことによって抱卵を放棄してしまうことも要因の一つ。たとえば近年の多様化したレジャー活動。スノーモービルや冬山登山（遭難してヘリコプター出動となれば影響は甚大です）などがあげられます。冬は年に一度だけのイヌワシの繁殖期。入山は慎重に判断して頂きたいものですね。



「巣立ち後のイヌワシの幼鳥が紅葉に舞う」
撮影：アクティングレンジャー長船裕紀

イヌワシが見られる動物園⑦「札幌市 円山動物園」

「イヌワシを見てみたい！」けれども野生のイヌワシに出会うことはなかなかむずかしいものです。確実にイヌワシの姿を見てみたい人や、間近にイヌワシを見てみたい人は動物園に行ってみましょう。第7回目は、北海道「札幌市円山動物園」です。飼育展示課 石橋佑規さんへ伺いました。

Q. 円山動物園ではいつからイヌワシを飼育しているのですか。
「円山動物園では 1983 年からイヌワシを飼育しています。」

Q. 現在飼育中のイヌワシについて教えてください。
「現在飼育しているのは雌雄のペアで、オスの愛称は紫雲（しうん）、（2002 年多摩動物公園生まれ）、メスの愛称は剰水（せせなぎ）（2011 年秋田市大森山動物園生まれ）です。」

Q. 飼育で苦労していることは何ですか？
「偏食が多いため、給餌・摂餌量のコントロールに気を使っています。」

Q. イヌワシ以外にはどんな猛禽類を飼育していますか？
「大型猛禽類として、オオワシを 9 羽（うち 2 羽は非公開）、オジロワシ 2 羽、アンデスコンドル 1 羽（非公開）、小中型猛禽類としてはトビ、アメリカワシミミズク、ユーラシアワシミミズク、エゾフクロウ、シロフクロウ、ノスリを展示しています。」

Q. 今後イヌワシの飼育についての展望をお聞かせください。
「メスの剰水が繁殖年齢に達するのを待って、繁殖に取り組んでいきたいと思っています。」



Q. 飼育員さんが思うイヌワシの魅力について教えてください。
「鋭い眼光が魅力だと思います。」

Q. 来場される方に一言お願いします。
「円山動物園では日本古来の狩猟法である鷹匠の技術・ノウハウを生かして、猛禽類の保護、野生復帰に取り組んでいます。また、これらの技術・ノウハウを用いて野生に戻すことができない猛禽類の訓練を行い、来園者の皆様に体験していただく飛翔デモンストレーションも行っておりますので、ぜひご来園いただき、彼らの美しい姿をご覧ください。」

円山動物園では 180 種類 800 点の動物たちを展示しています。園内のリニューアルも着々と進んでおり、生き生きとした動物たちの姿を見ることができます。イヌワシの飼育については 1990 年に、当時まだ前例のなかったイヌワシの繁殖に国内で初めて成功し、日本動物園水族館協会（JAZA）から繁殖表彰を授与されました。猛禽類以外では、ホッキョクグマの繁殖にも国内で唯一成功している動物園でもあります。

行楽シーズンは、家族で外出する機会が増えるのではないのでしょうか。北海道はレジャーや観光、バードウォッチングにも魅力の多い地域です。これから北海道に行かれるという方は、ぜひ札幌市円山動物園に遊びに行ってみてください。

札幌市 円山動物園

〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘 3 番地 1
Tel 011-621-1426

開園時間：11月1日～1月31日 9:00～16:00
2月1日～10月31日 9:00～17:00

入園料：大人（高校生以上）600円
中学生以下 無料
年間パスポート 一人 1000円
その他団体割引があります。詳しくはホームページ等でご確認下さい。

休園日：年末 12月29日～12月31日
(1月1日～12月28日の間無休)



長船が行く

庄内地域野鳥めぐりの巻 その3



庄内では駆け足で夏が過ぎていき、あっという間に秋が深まってきました。まもなく鳥海山の雪化粧がみられることでしょう。再びやってくる冬鳥を待ち焦がれていた鳥っこは、寒くなるほどにさぞ喜びのことでしょう。

夏から秋も、様々な感動的な出会いがありました。コウノトリに始まり、サシバやハチクマなど夏鳥を見送り、鳥以外にはアサギマダラやシロマダラ、ニホンリスなどにも会いました。今回は8月から10月にかけて庄内地域と鳥海山周辺（秋田県側含む）の生き物を紹介します。

（撮影：長船裕紀）



今頃はこんな風景が広がっているかも！（酒田市鳥海山南麓）



2013/08/09 クマタカ

センターに研修に来た高校教諭！氏に調査体験をしていただきました。クマタカが現れ大興奮。場所：酒田市（旧八幡町）



2013/08/24 コウノトリ

まれに庄内に訪れるそうです。大陸からやってきた個体の可能性が高いです。足をけがしていたので、心配です。場所：鶴岡市羽黒町



2013/08/26 カッコウ

じっとしている定点調査中は鳥から近くにやってくることも多く、調査の疲れを吹き飛ばしてくれます。場所：酒田市（旧八幡町）



2013/08/27 アサギマダラ

鳥海南麓ではこの時期多く見ることができます。ひらひらと優雅な舞を見せてくれます。場所：酒田市鳥海南麓



2013/08/29 ツキノワグマ

鳥類調査中、雪渓を歩くクマがいました。冬眠前のクマが食いだめをする時期ですので、遭遇には気を付けましょう。場所：酒田市鳥海山



2013/09/07 シロマダラ

新聞にも登場したアイドルです。夜行性なのでなかなか会えません。みなさん、見つけたらラッキーです。場所：酒田市（旧八幡町）



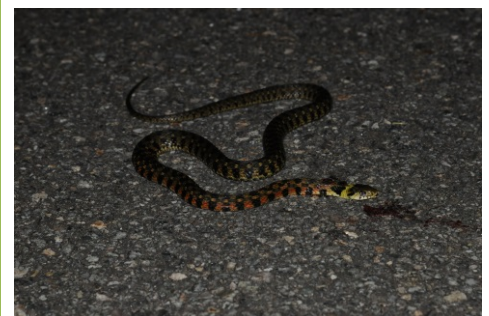
2013/09/11 オオハクチョウ

鳥獣保護区を巡視中、中洲の草陰からテクテク歩いてくる大きな鳥。おや、ハクチョウさんではありませんか。場所：酒田市最上川



2013/09/11 コバヤハズカミキリ

ブナ林の定番カミキリです。林縁の林床のササの葉に、オスとメスが一緒にいました。場所：酒田市鳥海南麓



2013/09/11 ヤマカガシ

秋頃は道で轢かれたヘビを多く見かけます。通勤時には他にシマヘビ、アオダイショウ、マムシの死体も見かけました。場所：酒田市鳥海南麓



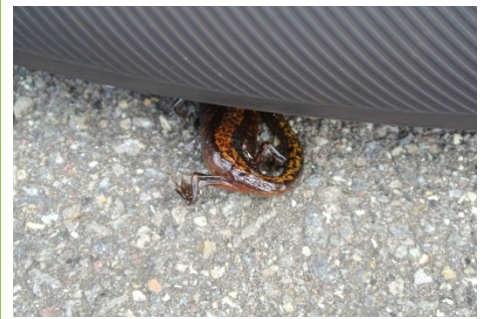
2013/09/11 アカアシクワガタ

夜のアニマルトラッキング！外灯の近くで、他にもカブトムシやミヤマクワガタ、ヒメオオクワガタ、エゾゼミなど色々。場所：酒田市北青沢



2013/09/19 ニホンリス

道端でオニグルミをカリカリとかじっていました。昨年同じ場所で車に引かれたリスを拾いましたが。気を付けないとね。場所：酒田市草津



2013/09/22 ハコサシヨウウオ

頭だけタイヤの下敷きになって死んでいました。タカの渡りを見に来た方の愛車、なんとハリアー（チュウヒの英名）に…。場所：鳥海山



2013/09/23 ハイタカ

この日一番多かったのがハイタカです。場所：鳥海山



2013/09/23 サシバ

9月下旬ともなればサシバはあとわずかです。これは幼鳥でした。来年、無事に日本に戻ってきてほしいです。場所：鳥海山



2013/09/23 アマツバメ

遠くで飛んでるなぁと思っていたら、突然近くに群れが移動してきて間近で見られることが何度かあります。場所：鳥海山



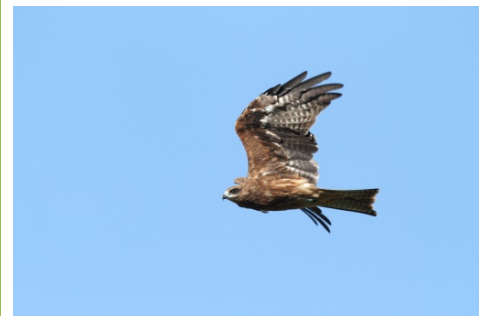
2013/09/23 チゴハヤブサ

鳥海山北麓では、秋の渡りのシーズンに高確率で見ることができます。猛スピードで私の目の前を通過していきました。場所：鳥海山



2013/09/24 ハチクマ

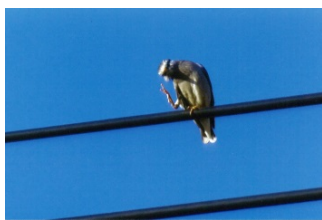
今シーズンもっとも近くで見たハチクマです。どこまで接近してくるのだろうか、思わず身構えてしまうほどでした。場所：鳥海山



2013/09/24 トビ

なんといってもトビを忘れてはいけませんよ。近くで見ると、さすがタカ科だなぁと思います。場所：鳥海山

その他の庄内野鳥（酒田市在住の上野さんから提供していただきました。ありがとうございました）



2013/03/15 ムクドリ

イオン酒田南店付近のねぐら入りは凄まじい数です。場所：酒田市



2013/03/25 ノスリ

最上川河川敷の定番の猛禽類ですね。場所：酒田市最上川



2013/04/21 オオソリハシギ

河川敷に2羽でいたそうです。場所：酒田市最上川



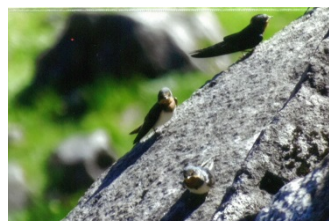
2013/05/23 セイタカシギ

出会いはタイミング次第。場所：酒田市最上川



2013/07/21 ウミネコ

今年誕生した幼鳥です。場所：酒田市最上川



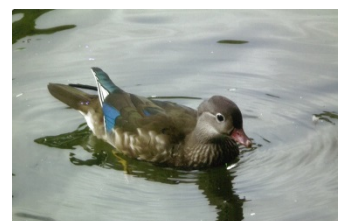
2013/09/19 ツバメ

鳥海湖の近くで撮影したそうです。場所：鳥海山



2013/09/27 ダイサギ

スワンパーク付近のようです。膝立ちで休憩中。場所：酒田市最上川



2013/09/30 オシドリ

一応、雄といっしょにいたそうです。場所：鶴岡公園

